



景況DI値は回復傾向へ転換するも、 燃料高騰・資材不足の懸念は残る

概況(全体)

9月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.6%（前回調査8.3%）、「悪化」が48.3%（同55.0%）で、業界全体のDI値は-39.7となり、前月調査と比較して7ポイント回復した。

全国及び東北・北海道ブロックは、一部製造業で持ち直しの動きはあるものの、部品不足や原材料の高騰により景況感は足踏みが続いている。

また、ワクチン接種の進展に伴い罹患者数は低下するなど、明るい兆しはあるものの、新型コロナウイルスによる経済活動への提供は長期化の様相が続いており、非製造業を主体に資金繰りや雇用の面で悪影響が生じている。

業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数、及び「悪化」したと回答する数が共に減少した。

そして、非製造業においては、「好転」とする回答が増加し、「悪化」と回答する業界が少し減少した。

結果として業界全体のDI値は回復傾向に推移した。しかし、燃料等原材料の高騰が継続していることや、半導体をはじめとする、資材不足が経済活動の足枷となっている。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-39.7	-33.2	-35.0
製造業	-34.8	-26.3	-28.4
非製造業	-42.8	-38.5	-38.5

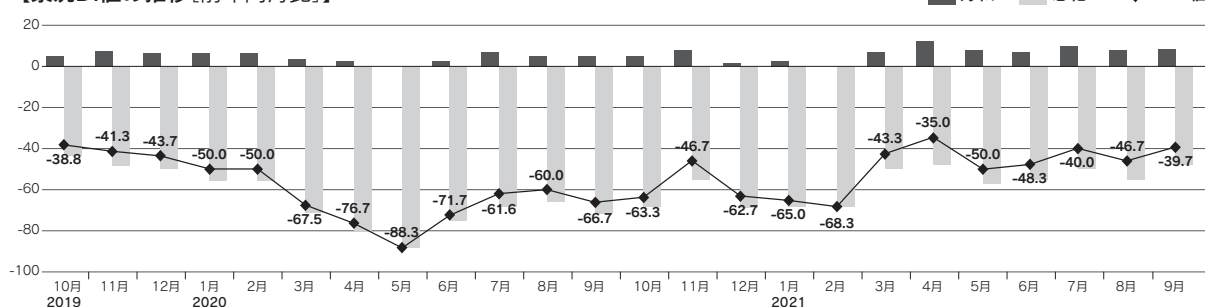
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☄☄☄	☂	☄☄☄	☁	☂	☂	☄☄☄
非製造業	☄☄☄	☄☄☄	☄☄☄	☁	☂	☄☄☄	☂

【凡例】
 ☄☄☄ 雷雨 -30以下
 ☂ 雨 -30超 -10未満
 ☁ 曇り -10以上 10未満
 ☀ 晴れ 10以上 30未満
 ☀☀☀ 快晴 30以上
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

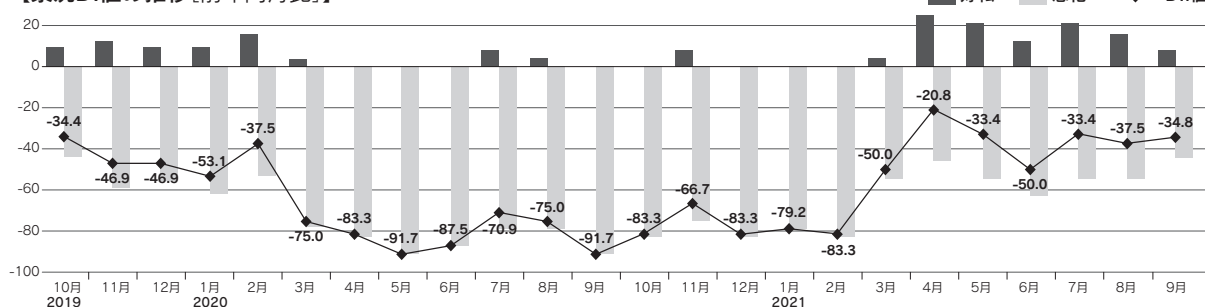
業界全体

【景況DI値の推移[前年同月比]】



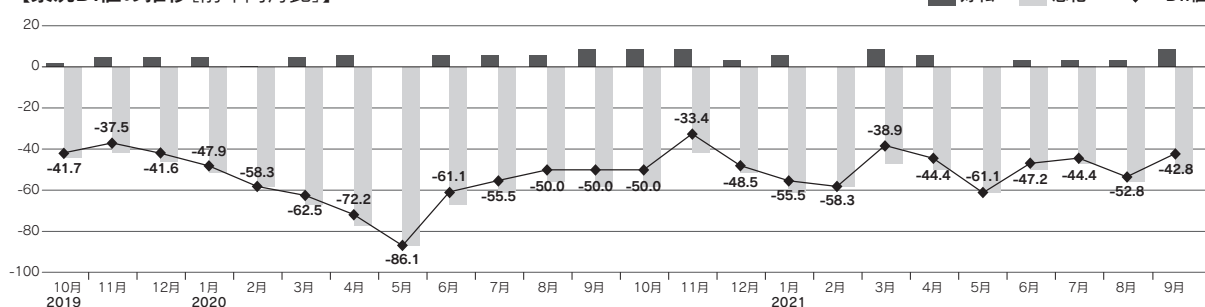
製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



非製造業

【景況DI値の推移[前年同月比]】



●製造業

(回答数:23名 回答率:95%)

【食料品(豆腐)】

県内のスーパーに商品を納め、PB連携するなど、積極的な活動実績があった県南の豆腐製造業者が廃業した。地方スーパーの売り場でも、全国の大手中豆腐メーカーとの競争が激しくなっている。また、原材料は値上がりしているものの、その価格転嫁も難しく、中小零細の豆腐メーカーは益々販路が狭くなってきており、非常に厳しい状況である。

【食料品(パン)】

売上は概ね昨年並に戻っている。しかし、原料及び燃料の値上げにより、利益は益々悪化している。

【繊維工業(繊維)】

仕事の受注を確保しても、加工賃の値下げなど非常に厳しい企業運営となっている。また、外国人技能実習生の帰国等により工場内の人手が不足するなど、生産効率が落ちているため、収益状況性が悪化している。その中の最低賃金の値上は廃業を決断する機会となる可能性がある。

【木材・木製品(素材生産)】

ウッドショックの影響により木材価格が上昇しているが、県内の原木生産量が増加してきていることから、先月に比べ木材価格の上昇、在庫量の不足も落ち着いてきている。来春頃までこの傾向が続くと考えられる。

【印刷(印刷)】

コロナワクチン接種が進み緊急事態宣言が解除されたが、先月までの厳しい状況は続いている。また、仕事が少ない状況での安値受注が継続していることや、今後は材料等の値上げも想定されるため、年末に向けて不安はつきない。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

年初から低迷傾向であった受注量については各組合員とも改善している。一方、全国的な鉄製品の需要増加により原材料、ボルト類等の値上げに歯止めがかからない状況で、1年以上前から受注予定だった物件等は材料費増加によって利益率が低下している。材料費値上がり分を製品価格に全て転嫁出来ていない。

【一般機器(金属加工)】

受注面は順調に推移し、業況は活発である。収益面では材料費が値上がり傾向にあり、依然として厳しい状況に変わりない。

【その他の製造業(漆器)】

蒔絵・沈金の加飾体験を実施している。9月の修学旅行や現地に出張しての体験が新型コロナウイルスの影響で、中止や延期となったものが数件あった。移動を控える意識が強くなった社会の中では、今後の売り上げにも大きな影響がある。

●非製造業

(回答数:35名 回答率:97%)

【卸売業(米)】

組合員の高齢化及び後継者不足に課題と問題を感じている。後継者がいない組合員の生産者(農家)をいかに他組合員に取り込めるかが課題となる。

【小売業(みやげ品)】

令和3年9月の売上の前年同月比は60%であり、前々年同月比は21%であった。数字的には依然として非常に厳しい状況ではあるが、10月の予約が増加していることもあり、回復の兆しであることに期待したい。

【小売業(花卉)】

昨年は持続化給付金や国からの支援・補助事業などでマイナスを多少補うことができたが、今年度は持続化給付金が無い分、厳しい状況が続いている。生産農家もコロナ禍で生産を縮小したりするなど、供給量が減少している分高値が続いている。

【商店街】

9月の組合員企業の売上高は百貨店で前年比95%、その他テナントは60%である。激減した前年売上との対比であることを考慮すると、景況回復の実感はない。

【サービス業(旅行)】

国内旅行案件の取扱いは前年同月比120%であるが、前年がほぼゼロであったことから決して満足できる売上ではない。しかし、緊急事態宣言の解除や秋田県の警戒レベルが下がったこと、そしてワクチン接種の普及など、今後は近県旅行の需要が多少増えることが期待できる。

【サービス業(タクシー)】

売上が対前年比で-10%と、引き続き厳しい状況が続いている。商店街や飲食店、旅行業などと同様、新型コロナウイルス感染拡大による人の交流が少なくなった影響を直接受けている。

【建設業(電気工事)】

住宅着工件数は前年に比べると伸びているものの、大手ハウスメーカーの取り扱いであるため、利益は高くない。業界は高齢化に加え、電工不足で工事店は相変わらず多忙の状況にある。

【運輸業(トラック)】

9月後半には稲刈りも始まり、米の集荷等の輸送(4t、2t貨物)が増えているが、前月からすると減少傾向となっている。前月比では売上・収益ともに減少となり、前年同月比においても減少傾向である。今後、米等の輸送貨物の増加に期待したいところである。収益の減少については、ここ数ヶ月の燃料価格の値上りの影響が大きい。10月も大幅な値上がり見込みとなっており、今後の収益状況への影響を懸念している。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。